

第2回袋井市総合計画審議会 議事録

会議名	第2回 袋井市総合計画審議会	
開催日時	令和元年11月6日（水）午後6時30分～午後8時45分	
開催場所	袋井市総合センター4階大会議室	
出席者	【委員】	
	（会長）静岡理工科大学 学長	野口 博
	（副会長）一般社団法人 静岡県建設業協会 常務理事	杉保 聡正
	一般財団法人 静岡経済研究所 主任研究員	岩間 晴美
	株式会社三菱総合研究所 主席研究員	北井 涉
	田圃家穂波 代表	鈴木 康功
	袋井市自治会連合会 会長	高橋 正則
	お茶畑助産院 助産師・保健師・看護師	高橋 美穂
	県健康福祉部医療健康局 技監（保健師）	土屋 厚子
	ベトナム料理店経営者	トアンソントゥン
	静岡文化芸術大学 文化政策学部芸術文化学科 教授	永井 聡子
	パナソニック株式会社 アプライアンス社 ランドリー・クリーナー事業部 静岡工場 工場長	廣田 亮治
	株式会社ライトハウスエデュケーション 取締役	大場 規之
	袋井国際交流協会 会長	
	静岡大学情報学部行動情報学科 教授・行動情報学科長	遊橋 裕泰
	【袋井市】	
	副市長	鈴木 茂
	理事	山本 明央
	総務部長	鈴木 亨
	危機管理監	本多 芳勝
	総合健康センター長	安形 恵子
	市民生活部長	乗松 里好
	産業環境部長	神谷 正祐
	都市建設部長	榛葉 和弘
	都市建設部技監	前田 仁司
	教育部長	伊藤 秀志
教育監	山本 裕祥	
議会事務局長	一柳 好伸	
中東遠医療センター経営管理部長	城内 優	

	【事務局】	
	企画財政部長	大河原 幸夫
	企画財政部企画政策課長補佐	鈴木 浩方
	企画財政部企画政策課企画係長	久保田 邦彦
	企画財政部企画政策課企画係	山本 隆文
	ランドブレイン株式会社名古屋事務所	松波 克登史
	ランドブレイン株式会社名古屋事務所	地本 真菜
	【傍聴者】 2名	
欠席者	【委員】	
	志村内科医院 院長（医師） 袋井市医師会 会計	志村 昌大
	フリーアナウンサー 県ラグビーフットボール協会 理事	澤木 久雄
	さわやか株式会社 代表取締役	富田 玲

（議事）

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

（1）議題1：前期基本計画総括評価、社会潮流、人口動態の整理及び市民意識調査の結果について

（2）議題2：後期基本計画の施策体系見直し（素案）について

（3）意見交換（議題1・議題2）

（4）議題3：「人生100年時代」「Society5.0社会」の到来を見据えた新たなまちづくりへの分野横断型による検討について

（5）意見交換（議題3を含め全体）

4 事務連絡

5 閉会

(意見・回答要旨)

1 開会

【事務局】	開会いたします。はじめに、野口会長よろしくお願ひいたします。
-------	--------------------------------

2 あいさつ

【野口会長】	<p>こんばんは。ご参加いただきありがとうございます。一般公開ということで、傍聴の方も見えですが、前回より終了時間を15分延長し、議論を深めていきたいと思ひます。</p> <p>前もって資料をお送りしています。欠席の方が3名、そのうち2名の方からはコメントをいただいていますので、先にご紹介しします。よろしくお願ひいたします。</p> <p>これであいさつに代えさせていただきます。今日は全員の方に発言していただきたく、一人7分程度の発言をお願ひいたします。</p>
【事務局】	続いて、副市長の鈴木からご挨拶申し上げます。
【鈴木副市長】	<p>みなさんこんばんは。お忙しい所ご出席いただき、ありがとうございます。11月は、どの自治体も来年度の予算編成に取り掛かっている状況だと思ひます。団体、地域のみなさんから、色々な要望ご意見をいただいています。</p> <p>遠州海岸は70kmぐらいありますが徐々にやせ細ってきており、10年くらい前から色々やっています。天竜川から土砂が流れて来て、海岸を形作っていますが、土砂が少なくなってきました。発電や利水を目的に、よかれと思っただけでやったことが、50年、60年経つと、負の側面も持っていると分かってきます。国土交通省もダムを蘇らせていこうと取り組んでいますが、取り組みにはやはり長期的な視点が必要です。今日は総合計画の方向性を議論していく段階になると思ひますので、そういった視点で意見をいただければと思ひます。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p>
【事務局】	<p>ありがとうございます。前回ご欠席され、今回からご出席される方をご紹介します。</p> <p>お一人目は、株式会社ライトハウスエデュケーション取締役会長、袋井国際交流協会会長の大場規之様、お二人目は静岡大学情報学部行動情報学科教授の遊橋裕泰委員です。1分ほどでのご挨拶をお願いします。</p>
【大場委員】	改めましてこんばんは。大場規之と申します。株式会社ライトハウスエデュケーション取締役会長、袋井国際交流協会会長を努めています。仕事は教育関係ですが、国際交流関係では、国際交流・多文化交流の分野でみなさんの役に立てれば幸いです。よろしくお願ひいたします。
【遊橋委員】	<p>静岡大学の遊橋と申します。私自身は経営学とICTを専門としています。</p> <p>私の研究室では、学生がスマートフォンアプリを作っており、学生同士で交流できると言っても、試験情報を書き込んでやっているようです。学生たちと情報サービスを作ったりしています。私は民間企業から大学に来て、それまでは某通信会社にいました。当時、2035年の将来像を作るというような事をやっていました。袋井市もバックキャスティングで総合計画を立案することを志向されているとの事です。現状からはどうしても暗い未来になってしま</p>

	<p>いますが、明るい未来に近付けていくための政策の話ができればと思っています。よろしくお願いたします。</p>
【事務局】	<p>澤木委員、志村委員、富田委員が欠席です。志村委員、澤木委員からはご意見をいただいております、本日資料としてお示ししています。また富田委員には後日意見の聴き取りを行い、委員の皆様と共有させていただきたいと思っております。</p> <p>次第に従い終了は午後8時45分の予定です。今回は公開形式ですが、一般聴講の方からご意見やご質問を頂戴する時間は設けていませんのでご了承ください。</p> <p>それでは、会長に議事進行をお願いいたします。</p>
【野口会長】	<p>今日は議題が3つあります。最初の議題1と議題2について事務局から説明をいただいて、それについて意見交換をします。その後、議題3について説明いただいた後、意見交換し、最後に取りまとめの時間を設けています。では議題1、2について説明をお願いします。</p>

3 協議事項

- (1) 議題1：前期基本計画総括評価、社会潮流、人口動態の整理及び市民意識調査の結果について
- (2) 議題2：後期基本計画の施策体系見直し（素案）について
- (3) 意見交換（議題1・議題2）

【事務局】	<p>議題1、議題2の説明</p>
【野口会長】	<p>ありがとうございます。事務局の説明で、一番印象に残ったのは資料2です。今までの総合計画は経済指標、人口に捉われすぎており、そのような視点よりも人間中心、袋井で嬉しい楽しい価値軸を市民一人ひとりが大事にする施策を中心にしていくことが大事なのではと感じています。</p> <p>欠席された澤木委員、志村委員のコメントを要約して言います。</p> <p>（澤木委員コメントの説明）</p> <p>（志村委員コメントの説明）</p> <p>では、順番にご意見をいただければと思います。</p>
【杉保副会長】	<p>政策5の安全安心については、評価も非常に良くて順調だということですが、ご存知のとおり全国で水害が発生しています。資料1の41ページに治水・治山対策の推進とあります。方向性はこれで良いと思いますが、もう少し詳しく書かないと、市民のニーズにあっていないと思います。これまで袋井市の治水対策は、内水対策が主でした。昨今の水害をみると、豪雨による被害が発生しています。多くの雨が降るような外水について、市民の不安は解消されていないと思います。外水対策を進めるようなことを挙げたらどうでしょうか。土砂災害も心配で、対応して欲しいです。</p>

	<p>また、停電対策について、地震や豪雨、風水害で停電になったり、長期の停電について市民も心配しています。防災拠点、水道供給施設の非常用点検、燃料確保など具体的に取り組む必要があると思います。</p> <p>もう一点、地震対策で、南海トラフが発生する前に備える取り組みが始まりましたので、見直しをして状況変化に応じた対策をして欲しいです。消防団の減少は袋井市でもあると思います。共助である消防団の団員の確保に取り組んでいくことが、地域の防災力を高めていくことになると思います。</p>
【岩間委員】	<p>3点あります。1点目は資料3の人口動態分析の整理について、若年女性人口が減少とあります。静岡県全体で若年女性の流出、出生数の減少といった実態がありますので、いかに流出を食い止めるかです。先ほどの話にもありましたが、女性が働きやすい、住みやすいことが非常に重要です。共働き世帯も増加し、専業主婦は無くなりつつあります。子どもができて働き続けられるためには、企業の努力はもとより、行政の働きかけも重要です。</p> <p>2点目、教育について。資料1の22ページ、取組指標「将来の夢や目標をもっている」と答える児童・生徒の割合」の達成度がすごく残念です。小さい頃から子どもたちが夢や希望を持てるということが、地元への愛着や将来は袋井市に戻りたい、活躍したいと思えるようになると思います。将来の夢や希望を持てる教育が大事だと思います。</p> <p>3点目はA Iの活用です。A I、I C Tは、言われているほど実際は活用されていません。効率化が全然できていないというより、むしろ逆に非効率だったりする所もあります。コストを抑えて効率化ができるとか、使いこなせるものの導入がすごく大事だと思いました。</p>
【大場委員】	<p>今回の総合計画は10年の計画の中で、後期の部分を検討するものです。前期を引き継ぐという観点から3点ほど確認させていただきたいと思います。</p> <p>はじめに、人口動態で外国人を5年前と比較して5年前は3.5%、3千数百人でしたが、今は5.3%で、19人に1人が外国人です。特に静岡県西部は、外国人人口の伸び率が一番大きいです。もっと増えることは目に見えている状況です。外国人人口の急激な伸びが計画にどのように反映されているのか、着眼点がどうなっているのか確認させていただきたいと思います。</p> <p>2点目、教育関係です。この5年の間に公立幼稚園を活かすということで、幼小中一貫教育という取り組みをしてくれました。小一プロブレム、不登校、いじめなど、そういったことに対して、幼小中一貫教育がどのように計画の中に表されているか、活かされているのか、確認させていただきたいと思います。</p> <p>3点目は、外国人の親が義務教育の必要性を認めず、学校に行かない子どもが出てきています。全国的な問題で、生徒が増えると地域で色々な課題が出てきます。外国人の子ども達の教育の問題を確認させていただきたいと思います。</p>

【北井委員】	<p>私は全体の考え方についてです。資料1の6ページに待機児童、公共工事の現状等々が挙げられています。長期的に考えていくと、行政がお金を出して解決できる部分はどんどん小さくなっていくと思われます。行政施策としてどうしていくのか、基本的な考えとして、自助、共助のそれぞれの分野の課題をいかに改善していくか、といったことについて、今までの総合計画よりも意識してよいと思います。自治体は何をすべきか。安全といった場合に、自助、共助で解決できること、公助すべきことを分け、公助には市の限られた予算や人員を重点配分することを考えていかないと、課題はずっと課題のままになってしまいます。市民、企業を巻き込んで、地域全体として良くしていく、という概念をもっと出してほしいと思います。</p> <p>次に、資料4の18ページ、人生100年時代からイメージすることの回答が気になりました。ネガティブな回答が多く、「祖父母や親が長生きして介護負担が増える」、「今後ずっと働かなければならない」の2つが上位になっています。幸せが大事であると言いながら、長期で考えると不安を抱えてしまっている。そのあたりに行政でできること、個人ができることがあると思います。長期的に変えていくべき部分と大きな方向に向けてショートサイクルでやるべきことを皆で共有しないと、ずっと漠然とした不安があり立ち竦んでしまいます。それが最も良くないことだと思います。みんなが達成できる目標をどこに置くのか。人生100年の不安というものに対して、市民へのメッセージとしても重要になってくると思います。</p>
【鈴木委員】	<p>資料の1の37ページ、指標の評価についてです。取組指標の主要農産物の算出額の金額が伸びていません。このまま同じ評価を続けても、人口減少する社会で価値観が変わっていく中、10年後に明るい評価は出てくることなく、評価指標として適切ではないと考えます。農業者が減っていく中で、どのように次の世代につなげていくか。行政に頼らず、自分たちの力で次の世代へつなげていくことです。商売でも次につなげていきたいという意思のある方は、必ずその思いを若者につなげていこうとしています。農業が伸び悩んでいることに行政はあまり拘らない方がいいと思います。またそれを大切にしまうと、10年後も同じ評価の繰り返しになってしまうと思います。</p>
【野口会長】	<p>今6名の方の意見が出ました。市の方で手短かに答えられることがありますか。</p>
【鈴木副市長】	<p>本日は、委員の皆さんから沢山意見をいただき、整理して後日回答させていただきたいと思います。</p>
【野口会長】	<p>大場委員の意見は、外国人が増えている中、多文化共生の中で、どういう風に皆が幸せに生きていけるか、学校に行かない人をどう対処していくか。北井委員の意見は、自助、共助が必要ではないか、幸せの目標をもう少しポジティブにできないか。鈴木委員の意見は、農業が減る中でどうポジティブに考えていけるか、自助共助も含めてだと思います。事務局で回答を準備し、かつ政策に活かしていただければと思います。</p>
【高橋正則委員】	<p>2点です。袋井市の人口が8万人という目標があります。アンケート結果で、住みたくない、住み続けたくない理由がそれぞれ書いてあります。交通の便が悪いという回答が一番多くて、6割くらいあります。田舎にいくほど交通の便は悪いです。これから高齢化になっ</p>

	<p>て買い物に行くにも不便で、そういう将来を見通して道路整備や公共交通を増やすとか、考えていくべきです。</p> <p>もう1点は、親しみやすい市民スポーツの推進について、目標が日本一健康文化都市ということで、現に新しい体育館ができています。それをどのように活用していくか、近い将来、市民にそれをどう発信していくか重要だと思います。</p>
【野口会長】	<p>さっきも話が出ていましたが、体育館だけでなく公園で体操をすとか、コミュニティの中でどう広げていくかなども大事です。</p>
【高橋美穂委員】	<p>人生100年時代、少子高齢化の中、20代、30代の人達が帰ってきたくなるまちにすべきです。医療費もかさみません。40代になると医療費等がかさむので、20代、30代の人達に帰ってきて欲しいです。そのためには、結婚して子育てした時に、永住したくなるようなまちづくりをし、その次の段階で、若者世代に対して袋井市の魅力を感じるような施策を提供することです。教育、食育、妊娠出産にも通じます。小中学校の時から食育は大事で、袋井市大好きと言ってくれるように持っていくのがいいと思います。</p> <p>また、消防団の人員確保という所ですが、消防団に入らなくてはいけない世代はちょうど子育て世代です。消防団は何のためにあるのか考えるべきです。子育て世代の負担を軽減できるよう、スリム化すとか年齢層を変えとかが必要だと思っています。</p> <p>もう一つは、祭りです。なぜ祭りが大事かという、地域のコミュニティがきちんと整うからで、祭りを交流できる場として活用すべきです。外国人との共生という観点で言えば、例えば地域でベトナムの文化を取り入れ、受け入れることです。</p> <p>交通の便についても、ワークパワーを活かした施策を考えたらどうかと思います。車がないと住めない袋井市ですが、車を持ってない人もいます。1台しかない世帯もあり、旦那さんが乗って行ってしまうと、残された家族が不便です。そうすると皆、掛川市に行ってしまうので、市民のワークパワーで回せるような施策、大きなお金をかけずにできることがあると思います。それを市民発信できると、市民が動くということになり、いいのではと思います。</p>
【野口会長】	<p>子育てと地域づくりの視点からのご意見でした。議題3について事務局からの説明の後、今までの内容を含めて、意見交換の時間を50分程度とりたいと思います。</p>

(4) 議題3 : 「人生100年時代」「Society5.0社会」の到来を見据えた新たなまちづくりへの分野横断型による検討について

(5) 意見交換 (議題3を含め全体)

【事務局】	<p>議題3の説明</p>
【野口会長】	<p>主な3つのテーマについて、先を見通して今からやるべきことは何かということを問われています。先ほど高橋正則委員は交通の便について、自動運転も視野に入れ、バスとか公共交通が問われています。また、スポーツについても体育館ができること、高橋美穂委員からは、食育や消防団に出る年齢層の検討とか暮らしやすい社会をつくるか、祭りをどうやって活用して行くか、移動にマンパワーを活用してという意見もありました。</p>

	<p>残りの6人の方に意見をいただいて、クロスして討論したいと思います。</p>
【土屋委員】	<p>健康の関係です。志村委員のコメントにもありましたが、高齢化が進んでいる中、10年後に足りない所は、地球温暖化でかなり高温になる室温を皆さんが自覚した方が良いということです。外気温との差で、高齢者の方は、熱中症になって心筋梗塞や脳梗塞を起こし、全国で約13万人の死亡例があると言われています。少し地球温暖化に配慮した方が良いのかなと思いました。</p> <p>それから、健診やレセプトデータなど突合ができるようになってきました。E B P M、科学的根拠に基づく施策形成ということで、データを活用してライフステージ毎の健康づくりを行っていただき、できれば生涯健康手帳みたいなものを袋井市独自で、I C T等を利用しても良いと思うのでお願いしたいと思います。A Iについては、データ数が少ないと正確には出ないので、ある程度市町村がやり始めてからの方が良いのではないかと言われたことがあります。A Iに分析してもらって、こういう健康づくりをやった方が良いというのは模索中です。</p> <p>最後になりますが、資料にも居場所とありましたけれど、島根県か鳥取県だと思うのですが、1階が高齢者の内職等を行う就労の場所で、2階がお茶等を飲めたり、1人暮らしの方がご飯を食べられたりする憩いの場、3階がスポーツジムのような運動できる建物が建てられていて、市役所や民間が運営されている、そういう拠点、居場所づくりをやれたら良いかなと思っています。三川地区と浅羽地区とでは健康課題が違うと思いますし、袋井市の中心部とも違うと思います。地区ごとに合わせた拠点とか、健康づくりの建物ができていくと良いかなと思っています。</p> <p>あとは、居場所ができれば、8050問題など、引きこもりの方が非常に問題になっていますので、県でも実態調査をしていく予定ですが、きめ細かく対応していかなくてはいけないので、話題にさせていただきたいと思います。</p>
【野口会長】	<p>色々なご意見を出していただきありがとうございました。袋井市も、公民館的なものが前からあり、それをコミュニティセンター化して、そこで、今のお話のような複合的な歩いて行ける所で、アクティブにできることがあると思います。</p>
【土屋委員】	<p>島根県の建物は、そこでお金を稼ぐことができるみたいです。</p>
【ドアン委員】	<p>100年先まで生きるという話ですが、今後、税金も年金も心配です。高齢者が働きやすい環境をつくることができれば、元気に健康で働けると思います。まちづくりは健康が大事です。働いて国の力にもなると思います。最近、高齢者の運転免許返納を聞きますが、免許を返納すると、交通が不便で住みにくくなってしまいます。</p> <p>外国人関係で、私が知っている団体で小学生が外国人と交流し、英語を使ってコミュニケーションを取り、英語を使って世界に発信するところがあります。こういう取組ができれば、自然な姿で子どもたちが外国人と話すことができるのではないかと思います。</p>

	<p>外国人として、どこに住みたい、どこに住みやすいか、ということについては、行政が個別対応できるかどうかによって、評価がバラバラになります。個別対応がある所は人気があります。</p>
【野口会長】	<p>私の大学の橋本理事長と話した際、星陵中学・高等学校では、東大や東工大のアジアから来ている留学生は、アジアングリッシュの方が、アメリカングリッシュとかクインズングリッシュより親しみやすいから、英語教育をアジアで一体になって進めたらどうか、ということをやっているらしいです。大学生が稼げて、コミュニケーションが広がるので、良いかもしれません。大学でどうやって英語化を進めるかというのは、欧米英語だと大変なので、アジア英語での共生を広めるのが良いのではないかなと思いました。ドアン委員の発言と共通しているかもしれません。</p>
【永井委員】	<p>文化芸術分野で話をします。哲学を思い切り発揮してもいいのが文化芸術だと考えています。文化芸術の施設が少ないというデータがあります。20代、30代、40代がもっと活躍できる、あるいは魅力的に感じるまちと思えるようなところに文化施設劇場があるということで、拠点となる可能性を秘めているのではないかと思います。</p> <p>例えば、歩いて行ける、日常的にお母さん方が過ごすことができる、あるいは高校生が受験勉強できる、といった色々な活用の仕方が文化施設にはあります。芸術というと、少し遠く感じるかもしれませんが、そもそも舞台芸術は、目に見える楽しみだけではなく、人間とは何か、と問いかける分野です。目に見えないものを見せるというのがとても大事で、最後まで残りうるものではないかなと思います。</p> <p>資料の中では、将来活躍できるような、という文言もあり、共感する部分が多くありました。将来活躍するためには、多様な価値観を支える環境が必要だと思います。その大事な部分が芸術です。難しいものではなく、専門家だけのものでもなく、環境を整えて続けていくと文化になります。袋井市の環境が整理されてきている中で、文化施設がもっとあってもいいのではないかと、劇場が多様な視点を持って展開をしていく昨今なので、もう少し広まっていいのではないかと思います。</p> <p>文化施設はこれまでは、舞台芸術に特化して造られています。「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」ができてから、劇場が社会に一番密接に関わることができる大事な拠点ではないかと思っています。そういった意味で、文化を支えることもできます。</p> <p>色々な文化施設で、小学校と演劇人やダンスなどレベルの高い方々が、小学生に見せるためのプログラムを創っています。高校生のプログラムにもコースできて、舞台芸術が、若い世代、シニアに浸透してきているという実感があります。障がいを持った方々も文化芸術と切り離れているのではなく、身体表現の可能性を広げています。通常の表現ではできないような表現、車いすダンスも非常にスキルあるダンスをされていたりします。政策6の生涯学習、文化芸術にまとめられたものは、生涯文化芸術と言っても良いくらい別々にあるものではなく、多様な価値を合わせつつ、まちに貢献できると良いと思います。</p>

【野口会長】	私の大学も、3次元の映像化やドラマ、劇を行っています。幼稚園や小学校、中学校の発表会等で、それに近いことに取り組んではきています。
【永井委員】	小学校が舞台芸術を見せる場合は、体育館で行うケースが多いのですが、劇場に足を運んで劇場でのワクワク感、臨場感を見せてあげると、一生忘れないと思います。資料にもある質の高い教育にも結び付くと思います。感受性の豊かさは将来必ず役立つはずですし、色々なことにつながり、20代、30代の方達が戻ってきて、住みたいと思ってくれる場所になると思います。
【廣田委員】	資料3の人口動態のところです。私のところは工場なので、日頃から人口動態を気にしています。資料にある、子育て世代が離れていく、ということが非常に気になっています。この世代は、我々からすると働き世代であり、お子さんが将来、我々と一緒に働いてくれるチャンスもあります。一番大切にしないといけない世代がなぜ出ていくのかと感じています。それは託児施設の問題なのか、交通網の問題なのか、商業施設の問題なのか、もっと深堀をしてどうメスを入れていくのかというのを課題にした方が、色々なことが見えてくると思います。
【野口会長】	近くの場所へ移っていく理由を事務局から説明をお願いします。
【事務局】	転入転出の実態として、掛川市に転出している子育て世代の割合が多いです。以前、市民課の窓口でアンケート調査を実施するとともに、様々な統計データを組み合わせ分析しました。仮説として、結婚して愛野駅周辺の賃貸住宅に住み、子どもが生まれ、幼稚園に入り、小学校に入る前、家を建てる頃になると掛川市など近隣市へ転出する、そんなイメージがあります。
【廣田委員】	私も同じように感じます。一方、産業の側面からみると、これから事業を健全に進めていくためには、日本人だけの力ではだめなのは明らかです。外国人の方とどうやって上手く働いていくかが重要になってくると思います。ラグビーワールドカップのように、色々な国のメンバーがいて1つの目標に向かっていくのが、あるべき姿と思っています。 テーマ1にある多様性は外せないと思います。テーマ3の仕事産業の視点で、私どもの工場でも、正社員の方だけでなく派遣社員の方にも働いてもらっています。派遣社員の毎月の退職率が下がらず4～8%ありました。特に上期は、増税前の駆け込み需要の影響もあり、非常に忙しい時期でもあったので、退職率が最大で12%になっていました。そこで、今までのやり方は違うのではないかと思います、人中心、人基軸といった視点で、ものづくり道場というものを作り、社員教育に充てる施設に派遣社員にも入職をしてもらいました。1週間マッチング度を確認しながら、しっかり勉強をしてもらってから生産活動に入ってもらう仕組みにすると、直近で退職率が1.2%と急激に良くなりました。やはり物ではなく人なのだと改めて実感しました。
【野口会長】	どういったマッチングなのでしょう。
【廣田委員】	ビス締めや、物を組み立てる等色々な作業があるのですが、器用な方、器用ではない方いるので、そういったところを見ながら、時間をかけて教育することが大事だと思いました。

	<p>基本的な教育を大事にしながら、公民でやっていくことです。まだまだ見過ごしているものがあるのではないかと思いますので、そういった視点で是非検討していきたいと思います。</p>
【遊橋委員】	<p>資料6で、ICT政策を除外、とあります。ICTが政策の柱となっているのは確かにおかしいと思いました。ICTを政策として柱立てると、それを使うことが目標になり本末転倒だと思います。基本的には、ICTを政策の柱から外すのは賛成です。</p> <p>ただ、政策の柱にすると、1点別の効果があると思っています。他の施策の中にあると、先進事例を導入する時にしっかり見てもらえているのか、不安になりそうです。先進的なものを試すことは必要だと思っていて、新しい取り組みは人材育成につながるがあるので、あえて先進事例に取り組む場合は施策から落とさない形で、必要があれば施策に戻すということを検討していただいた方が良いのではないかと思います。</p> <p>施策のうち、評価が悪かった施策のやり方についてICT等を使って解決できないかと考えています。これはデジタルトランスフォーメーション(DX)と呼ばれるものです。ICT施策でやり方自体を変えていくことを検討し、後押しをしていくのがあっても良いのではないかと思います。</p>
【野口会長】	<p>ICTを使うとやり方がどう変わるかという点は、誰が考えるのでしょうか。</p>
【遊橋委員】	<p>それは施策を担当している方と、ICTまちづくり課等と一緒にやっていくというイメージで話をしました。必要ならば支援したいと思います。</p>
【遊橋委員】	<p>AIで今ホットなのがチェスなどのディープラーニング(機械学習)だと思います。この分野は、正解を学習させて、コンピューターが自分で自分と対戦するという経験を積んで作っていきます。この分野は、最初に人間が正解を与えないと解けません。完全な正解でなくても良いのですが、正解に近いものを与えてあげないと学習ができないという点があります。AIは、やり方が決まっているものは正確に解いていくことができますが、0を1にするといったことはできません。</p> <p>では、なぜ政策に使えるのかというと、昔のデータファイリングだと過去のデータの因果関係を分析ができる程度ですが、今のAIを使った分析では、人間が分からない所までモデル化できます。指標を動かすと10年後の未来が変わる、という未来予測ができることが最大の魅力です。袋井市でもオープンデータを使ってやってみると、ノウハウが貯まると思います。すぐに使い物になるかどうかは難しいところでもあるので、人材育成で取り組まれてノウハウを積んだほうが良いと思います。</p> <p>2点目は、心と体の健康、都市と自然の健康、地域と社会の健康など、他では見ない視点があり面白いと思ったのですが、施策レベルでは、磐田、掛川でも同じような内容が並んでいます。</p> <p>例えば、今は共働きをして、女性が正社員で働くことが良いという価値観があると思いますが、実はロングレンジで見るとそういうことが無いかもしれない。人は3分の1の少数になってくると、その人達の不満が貯まるようになります。これから先、専業主婦の不満が固定されてくるのではないかと考えています。そういった時に、袋井市では専業主婦がしっかり</p>

	<p>できます、とか、逆の発想も考えられると思います。専業主婦の方の隙間時間を使ってやっていくとどうですか、というような施策もありなのではないかなと思います。</p> <p>例えば、私の大学で、月3万円のプチ起業をする事を行っています。本格的にやると大学を辞めないといけなくなりますが、月3万円を稼ぐ起業ならば、大学生は辞めずにできます。他の地域にはできないような、袋井市が先進的に取り組むと良いのではないのでしょうか。必ずしも正社員でやる必要もなく、プチ起業のような隙間時間でやるような施策を打つ等をする、商店街の店舗を時間借りするといった色々なバリエーションが出てきます。隣の真似をしなくても良いのではないのでしょうか。</p> <p>人の多様性を支援するようなことを続けると、AIができない0から1を作り出すということを、ぽつぽつできるようになるのではないかというのが私の言いたいことです。</p>
【野口会長】	<p>ありがとうございました。これで全員意見をいただいたこととなります。廣田委員は、人口動態、仕事、産業、退職率の問題、遊橋委員は、ICT先進事例へのチャレンジ、AIの未来予測。また、いずれも多様性は重要ということでした。</p> <p>AIの限界は僕も感じていて、そんなに先を見通しても陳腐化するのも確かです。結局は人の育成が重要だということ、プチ仕事、インターネットで専業主婦が稼いでいる例も今あります。</p> <p>今までの発言の中で、言い残したこと、言いたいことがありましたら、自由に発言をお願いします。</p>
【岩間委員】	<p>魅力的な商業の振興で、卸売業、小売業の売上金額の指標が低調であり、創業件数も目標値130件に対して平成30年度で27件となっており、10年先を見通した時にかなりハードルが高いと思います。袋井駅周辺の商業活性化等が掲げられていますが、人口が減少しマーケットが縮小方向の中、商業の捉え方や施策を見直しても良いと思いました。今の施策で10年後、商業が活性化するのかどうか、行政アプローチでどういことができるのか、もう一度見直していただければと思いました。</p>
【野口会長】	<p>袋井商業高校で、マーケットを学生のうちから企画して、商業祭を開催し結構稼いでいます。小さい時からいかに商業が大切か、高齢化を助けるものとか、発明とかも関係してくると思います。小さい規模の市町村でもクリエイティブにやれるかという、今までの商業でいいかは問われます。</p>
【岩間委員】	<p>少子高齢化が一番大きな問題です。若い人が出ていく状況の中で、これからどういことをやっていけば消費が盛り上がっていくのか。盛り上がれば、袋井市でチャレンジしてみたいと思う若い人が増えるのではないかと思います。</p>
【高橋美穂委員】	<p>駅前の活性化は大事だと思っています。物を売るだけでなく、コミュニケーションの場ということも記載されているので、活性化して欲しいと思います。</p> <p>人口問題として未婚の若者が多く、また、婚活に行かない若者も多くなります。駅前が若者の集う場所になると、色々な業種の交流が始まり、婚活の場や異業種交流から起業していこうといった流れができていくと思います。</p>

	<p>専業主婦の話が出ましたが、お母さん達は子どもを連れて色々なことを学びにいきます。しかし、子どもが0～1歳で仕事に復帰する人が増えており、子育て世代の学ぶ機会が減っています。子どもがいると子どもの健康に良いもの、食育の意識で学びに来ます。そういう人が起業し、つながって集まれる場、交流する場があれば良いと思います。</p> <p>先ほどのアートの場所は、駅から離れた所にあるので、駅前で創作活動ができたり、勉強できたり、若者と社会人が混じれたり、コミュニティとなる場づくりをもっと考えられるとよいと思いました。</p>
【野口会長】	<p>今度袋井駅に商工会議所が移り、駅前にホテルや集会所、200人くらい集まれる場ができてビックチャンスだと思っています。そこにアートを含んだクリエイティブなコミュニティスペースができれば、若い人も高齢者も集まり、わいわいできる場になるといいと思います。</p> <p>高橋美穂委員のご意見は、岩間委員のご意見の実現への道かと思っています。それがコンパクトシティにもつながると思います。</p>
【永井委員】	<p>駅にコミュニティの場を作るのは非常に便利で、駅近くの劇場もあり、そこからつながっていくのが一番良いと思います。</p> <p>ただ、忘れてはいけないのは、文化芸術が生涯学習の観点で市民が一番になると、誰でも関われるのは良いのですが、専門性がないと色々な価値観を拾えません。色々な価値観が増え、多様性が大事だと言われている今だからこそ、専門家が必要です。特に文化施設は、市民とアーティストを結ぶ人が大事だと思います。例えば、専門家ではない人は、ダンサーに声をかけ、いくら来て、と言うだけで済むと思っている方も結構多いです。しかしそうではなく、ダンサーが良い環境、空間で踊る事ができないと魅力的な発信はできません。それをまとめる専門家、プロデューサーは必ず必要です。プロデューサーはお金の勘定だけをすればよいのではなく、哲学やデザインをしていく力が大事です。</p> <p>金銭面と技術的な側面の両方を備えた人が色々な文化施設で大事だと言われています。この分野においては特に専門性が必要だと感じています。責任の所在は大事で、企画をした人間が、責任を取って問題を解決する位置づけが必要だと思います。</p>
【野口会長】	<p>昨日まで静岡市で大道芸人のパフォーマンスが1週間開かれていて、素人集団とは思えないくらいのものでした。</p>
【遊橋委員】	<p>袋井市の人口が8万8千人ですが、ふるさと納税という仕組みもあるので、住んでいる人だけを対象にしなくても良いと思います。例えば、バーチャルなまちなどを立ち上げ、ふるさと納税をしてくれる人を日頃から捉まえておくと、高額なふるさと納税の返品をしなくても、ふるさと納税をしてくれるのではないかと思います。住民は8万8千人でも、バーチャル市民は20万人いることを目指していけば良いと思います。</p>
【野口会長】	<p>アジア、チベット等では、地震に対して壊れやすい組積造やレンガ造が多いのですが、そういう所を鉄の網で包むと耐震性がすごく高まります。</p> <p>学生がクラウドファンディングで200万円ほど集め、現地で実用化しています。袋井市でもプロジェクトを立ち上げて、それが魅力的なら投資してくれることもあり得ます。</p>

【遊橋委員】	<p>エコパでの試合が知られているので、ラグビーで良い思い出の方がバーチャル市民になってくれるのではないかと思います。</p>
【杉保副会長】	<p>自然災害の犠牲者を出さないという観点から10年後のまちを想像すると、市民が自分の住んでいる地域のリスクを理解し、災害時要配慮者を含めて皆で協力しあって避難する、自助共助がしっかりできているまちというのが、あって欲しい10年後の袋井だと思います。自分の住んでいるところを学ぶというテーマで、地域で声を掛け合って協力するのがコミュニティです。</p> <p>分野横断型で検討するテーマ1と2は、防災においても非常に良いテーマ設定だと思います。テーマ3についても、産業・仕事はとても大事なものを射たテーマ設定だと思います。</p>
【鈴木委員】	<p>農業では、2019年から国連が「家族農業の10年」と定めています。以前の農業では用水がなかったので、5、6月は池に水を貯めており、貯める作業が防水になっていました。場所によっては豪雨で水没します。今回も茨城県などで沢山の水田が沈んでしまいました。ただ水田が沈むことで住宅地は助かっています。水田を守ることが農業分野でも大事だと思います。昔は家畜を飼っていて、稲わらが出て畑に敷いたり、家畜の餌になったり、お米の最後のとき汁も餌になってという風に成り立っていました。戦後色々な機械が開発されました。機械化があったからこそ、農業者が少なくなってもやれているという現実があります。家族農業ばかりでやっていると、今の時代、大規模な農業はできません。</p> <p>ただ、農業では持続可能性と生産性という二つの側面の両立が重要であること、そしてその考え方が大事。また、市民が市民らしくというような考え方を小さい時から市や学校で教えていくことが大事かと思います。</p>
【野口会長】	<p>今日は13名で、100近い意見があったかと思います。欠席された澤木委員の意見にあったB L I、I W I、S D G s、世界的な幸せ感、その代表である北欧、また、ブータンでは非常に質素な生活でも幸せを感じています。幼い時から幸せを感じながら育ち、大人になると幸せ意識が薄れるということはどうやって取り戻すかというのは色々あります。小学生までは皆で学んできているのに、中学高校受験で孤立化して、大学でメンタル弱い学生が多くなったりしている所もあります。私の希望としては、B L I、I W I、S D G s、の視点で、今の袋井市の指標とマッチングさせることです。</p> <p>I C TとかA Iの考え方をダイレクトに使っていくのがまだ現実的でないとするば、先進的なものを消すのではなく、数を少なくしてチャレンジするとかでも良いと思います。</p> <p>100あまりの指標の有機的なつながりをA Iでシミュレーションしていくと、ローカライゼーションの優先度が高くなります。都市集中型では日本はサステナブルに生きることができず、袋井や静岡といった地方の活性化で生き残るしか、日本に選択肢は無いと思います。</p> <p>全部をやるのではなくて、ポイントを絞ってやっていけると良いと思います。その時に、今日の委員の意見を参考にいただくと有難いです。</p>

	<p>生活アプリや、生活手帳、医学カルテをはじめ、どれくらいスポーツしているか、どのくらい健康か、毎日の生活の中で測れるようにデジタルデバイスを身に付けると健康格差も縮まり、各自が生き残っていけると思います。血圧が測れるものや心電図が測れるアプリもあります。70、80歳の方はなかなか使いこなせませんが、そこに若い人や学生が支援できると良いと思います。</p>
--	--

4 事務連絡

【大河原企画財政部長】	<p>本日はご意見いただきありがとうございました。それぞれまだ言い足りない委員の方もいらっしゃると思いますが、いただいたご意見をもとに、各部局へ持ち帰りたいと思います。話を聞いている中では、分野横断的な内容を多くいただいたという認識です。特に教育は、非常に取り組みが難しい分野です。</p> <p>是非次回の審議会等でも忌憚のないご意見をお願いします。本日はどうもありがとうございました。</p>
-------------	--

5 閉会

【事務局】	<p>次回第3回目の審議会の予定を来年2月の上旬から中旬の間で予定させていただきます。委員の皆様には改めて日程の調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして、第2回袋井市総合計画審議会を閉会いたします。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>
-------	---

以上